

妹背牛温泉の潜在能力を解明する

医学博士&文学博士 松田忠徳

～第5回 温泉は含有成分だけで、体に効くのか？～

温泉は含有成分だけで効くのか？

温泉の“真価”はその含有成分にあると考えられてきました。温泉水に含まれるさまざまなミネラルがクスリのように身体に作用するとの見方です。

現代（ヨーロッパ）医学の真骨頂はクスリによる薬理作用であることを考えると、ヨーロッパの温泉医学が温泉の効能をもっぱらその含有成分に求めてきた訳は理解できます。ですが、温泉はその僅かに含有される成分によってのみ、現代医学が治癒し難い慢性病等を治癒してきたのでしょうか？

現代医学の特徴は「対症療法」です。発熱には解熱剤、痛みには鎮痛剤、炎症には抗炎症剤というように――。症状の原因となるものを正したり治したりせず、発熱、痛み、炎症といった現象を抑え込みながら、最終的には私たちが生まれつき備えている自然治癒力で治します。即効性があります。ただ、同じ症状を繰り返すうちに、慢性化して、対応できなくなることが少なくないこともまた事実です。

大部分の温泉はクスリと比べると、極めて微量な成分しか含まれていません。にもかかわらずクスリが効かないような慢性病を治癒することもあるのはなぜなのでしょう？ 山口県俵山温泉のように含有成分が薄い単純温泉であっても、“リウマチの名湯”として知られる温泉もあります。リウマチは現代でも難病であることは良く知られていますね。



優れた還元力を有する「ペペル」の湯

なぜ温泉は“若返りの湯”と言われてきたのか？

古今東西、温泉は“若返りの湯”と呼ばれてきました。温泉に入ると、若々しくなる。肌が生き生きとすることは誰しもが実感するところでしょう。その含有成分だけで若返るのでしょうか？ そうであればそのようなミネラルが含まれたサプリメントやクスリでも可能なはずですが。

現代医学では老化の原因は活性酸素であると理解されています。がん、高血圧症、動脈硬化、糖尿病などの“生活習慣病”の主たる原因も、活性酸素による細胞の酸化から始まると考えられています。

温泉には細胞を錆び付かせる、つまり酸化させる体内の活性酸素を除去したり、抑制する働きがあるのではないのでしょうか？ それを検証することが必要です。“若返りの湯”の科学的な意味を解明する必要があるのではないのでしょうか？

温泉こそ昔から、日本人にとってのサプリメントではなかったのかと考えるからです。モニターによる実証実験の眼目はここにありました。いかに医学が高度化しようとも、「予防に勝る治療はない」からです。

私たちは温泉に入った後、幸福な気分になることができます。肌がみずみずしくなる。気力が蘇る。つまり精神的にも肉体的にも、若々しくなったということですね。確かに日本人の実感として、温泉は“蘇りの水”なのです。

妹背牛温泉の優れた還元力が、モニターにどのような実証結果をもたらせるのか？

前回まで、妹背牛温泉の還元力の検証結果をごくかいつまんで説明してきました。クスリからでは得られない、優れた温泉のみが持つ還元力、抗酸化力が、生身の入浴モニターや飲泉モニターに科学的にどのような結果をもたらせたか、次回以降説明したいと思います。